

# 学校法人城西大学理事長 水田宗子の人生ノート

「偽らず、欺かず、詭わらず」 74

## 最終章 人生ノートまとめにあたって

### ■創立45周年を迎えて

城西大学は今年創立45周年を迎えている。45年は世界の大学の歴史と比べれば長いとは言えないかもしれない。しかし、戦後の日本の高等教育という点からいえば、城西大学は戦後の新しい日本社会の構築を担う教育機関として、新しい時代にふさわしい建学の理念と教育目標を持つて出奔した大学として、戦後社会の人材育成のフロンティアを駆け抜けて来た大学であるといえるだろう。

古く長い伝統を持たないだけに、20世紀後半の日本社会の創設を担う人材育成にしっかりと目標を定めて、人間形成と人材育成が一体化し、社会に役立つ若者の教育に全力を挙げることができたのである。それが、戦争による荒廃から日本が立ち直り、国際社会の一員となる、新しい国を再建していく仕事を、政治家として担ってきた創立者の目指したものであり、城西大学へ託した理想でもあった。

45年の間、法人は、20世紀後半の歴史的な展開や時代の変化の中で、時代の節目節目に、将来を見据えた教育事業を手がけてきた。その一つは女子短大の設置であった。女子の進学率が向



執務室にて

上し、女性は家庭を守るだけではなく社会で働き、生産者としての役割を担うことが要請されていく中で、女子短期大学は設立された。1987年には男女雇用機会均等法が、そして99年には男女共同参画社会基本法が制定されていくという日本社会の流れに対応するものだった。

三つ目のステップは東京キャンパスの設置であった。城西大学の紀尾井町キャンパス構想は世界のグローバル化が進む中で、大学院での専門教育と就職活動を含む人材教育のもう一つの拠点を東京に置き、世界の大学へとつなげていく拠点とするというものであった。

依拠する教育分野に加えて、社会が必要とする人材を輩出するという大学教育の責務にこたえるために、経営学部、(薬学部) 医療栄養学科、現代政策学部を、そして城西国際大学では、メディア学部、福祉総合学部、観光学部、環境社会学部を設置してきた。2大学1短大の卒業生は8万人超、城西の第一期生は60

に依拠する教育分野に加えて、社会が必要とする人材を輩出するという大学教育の責務にこたえるために、経営学部、(薬学部) 医療栄養学科、現代政策学部を、そして城西国際大学では、メディア学部、福祉総合学部、観光学部、環境社会学部を設置してきた。2大学1短大の卒業生は8万人超、城西の第一期生は60

# 教育とは、自分たちが生きない時間と場を次世代に託す仕事なのだ。

### ■国際教育を一貫して推進

国際教育は城西が一貫して推進してきたことで、世界の協定校と共同教育、研究プログラムを大学院、学部ともアジア、北米、ヨーロッパ、オーストラリア、アフリカ各地の大学と推進して、国際的な人材育成の場を作ってきたが、これからもさらに充実させていきたい。

城西大学は創立50年へ向けて新たな活動を始めている。少子化が進む一方で新しい大学が次々と設置されて、大学が教育内容においてばかりでなく、生き残りをかけて競争しなければならぬ時代に向かっている中で、学校法人城西大学が目指したのは健全な

国際大学の教職員は一人一人の顔や名前はもちろん、経歴や業績などを含めて、そのすべては私の頭の中の宝庫にしっかりと納まっているが、心にはその人たちと一緒に働いたことが多く、心から得た幸せと感謝の気持ちが詰まっています。それも一緒に仕事をし、一緒に夢を育み、苦勞をしてきたからである。

2009年は25年一緒に働いた夫を亡くし、大変つらい年だったが、森本雅憲学長や草野素雄副学長をはじめとして、城西、城西国際大学の先生方に助けられ、何とか1年を過ぎることができた。局長をはじめとする職員の方たちと一緒にこの地を堅実に歩んできたが、昨年ほどその優秀な

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

2010年4月29日

術館巡りやシヨパン演奏会、ハンガリーリスト音楽院卒業生のコンサートなど、幅広い文化活動を、担当の篠崎佳代さんの熱意のもと展開している。最近出版した詩と批評のジャーナル「カリヨン通り」では四行連詩を海外の詩人たちとつなぎ合っているし、俳句も海外の俳人たちが参加して国際詩人の会へと発展している。文化は言葉の壁をやすやすと越える側面を持っているのだ。人間形成に欠かせない文化や芸術を学ぶ場としてのキャンパス作りに、これからも力を注ぎたい。

近年は箱根駅伝出場でお正月がハラハラドキドキする日々となった。坂戸や東金からバスで応援に駆けつけて来てくださる市長さんや市民の方たちへの責任感と、学生の走りが心配で、楽しむどころではない。来年も良い成績を収めてほしいと榑部静二監督にエールを送るばかりだ。

この人生ノートも今日で最終回を迎えた。創立45周年にこれまでを振り返る機会を与えていただいたことは大変幸せであった。1月から4月までの長い間、私をはじめとして多くの方々にインタビュをさせていただき、さらさらリサーチをして書き続けてくださった齊藤柳光さんに心からお礼を申し上げたいと思う。調整役をなしてくれた城西大学法人本部の篠崎佳代さんにも。

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

城西の強みはなんと言ってもオール城西の力である。

水田宗子